



諏訪清陵SSH便り

諏訪清陵高等学校

1月号その1

平成26年度 第25号

(平成22年度指定)

清陵サイエンスフォーラム21開催 (SSH 地域貢献事業) 名古屋大学大学院理学研究科物質化学系教授 伊丹健一郎氏 「分子のチカラ、分子をつくる～究極のモノ作りで世界を変える～」 Work hard!, Play harder!!, Dream even more!!!



高校生、附属中学校生徒、一般市民が聴講



伊丹教授を囲んで和やかに質疑応答を実施



中学生も積極的に伊丹先生に質問

諏訪市文化センターで「清陵サイエンスフォーラム21」を一般に公開して11月21日(土)に開催しました。当日は、本校1,2年生全員、3年生と附属中学校の希望者、そして一般市民数十人が聴講しました。

サイエンスフォーラムは、SSHコース生徒が講師の選出、依頼から当日の運営まで自主的に運営を行っています。今回のサイエンスフォーラムは、名古屋大学のオープンキャンパスに参加したSSHコース生徒が訪問した伊丹研究室で先生のお話に感激し、仲間に聞かせたいと思ったことが切っ掛けです。

伊丹先生は、有機化学の研究者となられた経緯(ベンゼンとの出会い・スーパーカー大好き少年が石油に代わる燃料「イタミン」の合成を夢見たこと)、有機化合物の多様性と、有機化合物の人類の生活や科学技術の分野における応用性の高さ、特に合成化学の可能性(「無」から「価値」を生み出す学問であること)、学際的人材が集まってMix-Labを作って「生命を知る、視る、動かす分子の開発」を実施している名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所の紹介(アフリカのサバンナ地域の農業に甚大な被害を及ぼしている寄生植物ストライガの強制的な発芽を起こさせる物質の合成研究)など大変興味深く、分かりやすく講演いただきました。

講演の最後には、「かけがいのない人になろう! (どんな小さなことでも「ユニーク」になる道を。)」 「向き不向きより好き嫌いで選ぶ(後悔しないために。実力は後からついてくる。)」 「人との出会いを大切に(大いに触発され、前言撤回する潔さを。)」という言葉頂きました。

講演終了後には、先生を囲む会を催し、大勢の生徒が率直な質問をしましたが、先生は一つひとつの質問に丁寧に答えてくださいました。附属中学校生徒もGFPタンパク質について堂々と質問しました。伊丹研究室のモットーは、「よく学び、よく遊び、夢をみろ (Work hard!, Play harder!!, Dream even more!!!)」だそうです!

平成26年度長野県学生科学賞入選者に賞状及び副賞を授与



12月24日には、今年度長野県学生科学賞で県教育委員会賞を受賞した化学部、優良賞を受賞した生物部とSSHコース生徒(生物)の2グループ、そして入賞したSSHコース3グループ「高高度発光現象スプライト」(地学)、「色素増感太陽電池」(物理)、「人の直観による意思決定の限界」(数学)の代表者が学校長から賞状と副賞を授与されました。それぞれの研究は、学会、高校生研究発表会、海外研修等でも発表させていただきました。